

数半減は**-94.0**万人（**-19.3%**）、封鎖人口は**-187.9**万人（**-38.6%**）ほど変化している。すなわち、たとえば、独自推計で見込まれた今後の出生率の低下がない場合、**2010～2060**年の**50**年間で、シンガポール在住人口は**20**万人ほど増加し、逆に過去の趨勢にしたがった今後の出生率の低下は今後**50**年間で在住人口を**20**万人ほど減少させる。人口動態率に関する**5**つシミュレーションのうち、在住人口総数に対し最も大きな影響を及ぼすのは封鎖人口の仮定であり、続いて転入数を半減させる場合、純移動率を男女年齢間で一定にする場合の順に影響が大きい。いずれも国際人口移動に関する仮定であり、将来のシンガポール在住人口の規模は移民政策に強く左右されることがわかる。

シンガポール在住人口の増加率を図**4-2**にみた。推計期間の最終期である**2055～2060**年においても人口増加率が正、すなわち推計期間中の人口が一貫して増加するのは出生率一定と独自推計のケースのみであり、その他のケースの人口は推計期間中に減少を開始する。人口減少を開始する期間をみると、最も早い封鎖人口では**2025～2030**年である。シンガポールが外国人の受け入れを停止した場合、**10～15**年以内に在住人口は減少を開始することになる。その他のケースについて人口減少を始める時期をみると、**2035～2040**年から人口増加率がマイナスになるのが転入数半減、**2040～45**年には移動率一定と公式推計で人口減少が始まり、残る生残率一定については**2045～2050**年に人口増加率が初めてマイナスになる。これら**4**つのケースについては、転入数半減、公式推計、生残率一定の**3**つのケースの人口減少速度が**2040～2045**年以後若干緩やかになるのに対し、移動率一定の人口増加率は低下を続け、**2055～2060**年の人口減少率は封鎖人口の次に大きくなる。移動率一定の人口減少率が大きくなるのは、独自推計では**45～49→50～55**歳以上の純移動はゼロと仮定しているが、移動率一定の場合には期首人口の男女年齢割合で純移動人口を割り振るので、人口の高齢化にしたがって、高齢人口の転入数が相対的に増え逆に若年人口の転入数が相対的に減少する。すなわち、独自推計で設定された純移動率による転入人口の年齢構造は若く、転入人口による総人口の若返りがある一方で、移動率一定では転入人口も高齢化している。このため、後にみるように、独自推計と比べて移動率一定の出生数は減少し、死亡数は増加することになる。

2055～2060年の人口増加率は出生率一定の**+0.9%**、独自推計の**+0.2%**、生残率一定の**-0.9%**、公式推計の**-1.3%**、転入数半減の**-2.3%**、移動率一定の**-2.9%**、封鎖人口の**-6.1%**の順に大きくなっている。先にも指摘したとおり、人口減少率が大きいのは国際人口移動に関する仮定を変更する場合であり、将来のシンガポール在住人口の動向は移民政策に強く左右される。

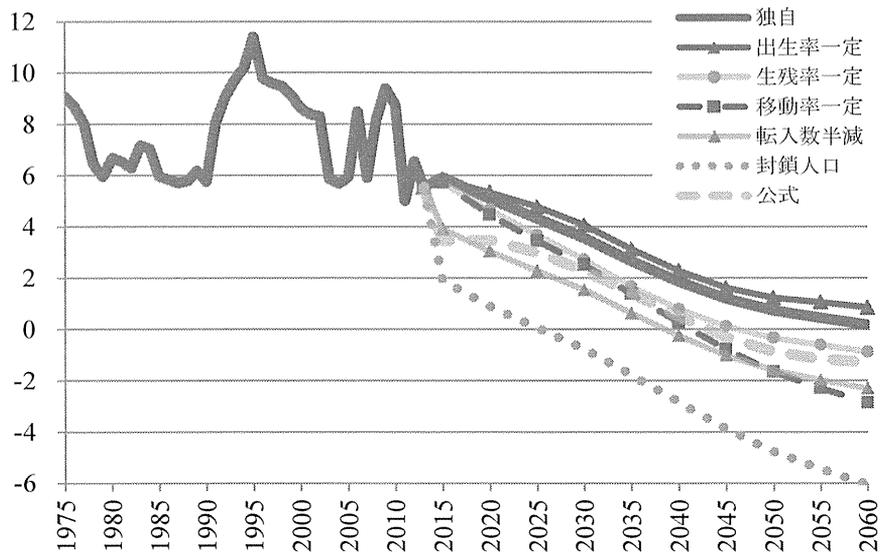


図 4-2 シンガポール在住総人口の増加率(%)の推移：
1975～2060年及び1970～1975年から2055～2060年

4.2. 自然増加率（粗出生率と粗死亡率）及び社会増加率

コーホート要因法による人口推計における人口変動の要因のうち粗出生率（百分比）の推移をみたのが図 4-3 である。ここでいう粗出生率とは $x-5 \sim x$ 年の出生数を $x-5$ 年の 0 歳以上人口（100 人単位）で除したものであり、推計で用いられる出生率仮定値とは異なり、将来の再生産年齢女子人口と期首人口規模によって決まる推計結果である。

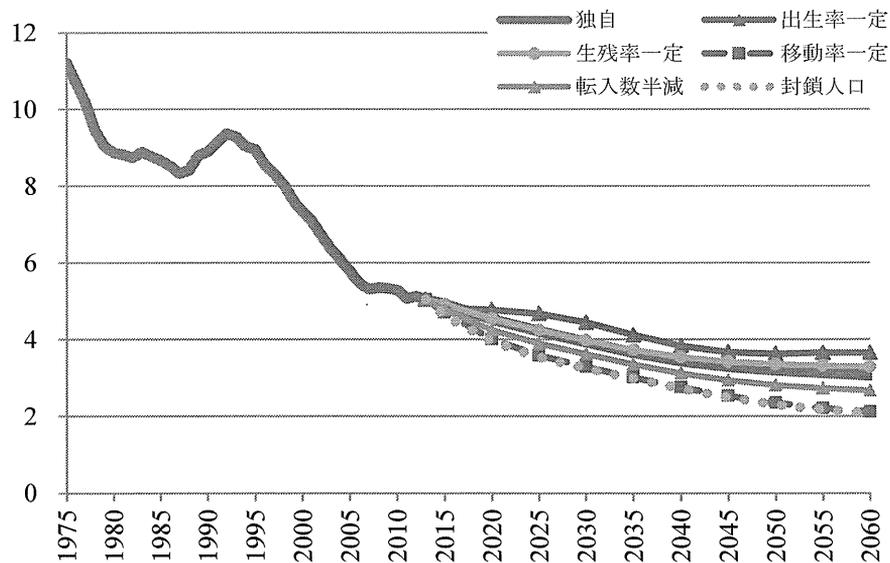


図 4-3 粗出生率(%)の推移：1970～1975年から2055～2060年

出生率一定の 2050～2055 年を除くすべてのケースで、粗出生率は 2010～2015 年から 2055～2060 年まで一貫して減少する。独自推計の場合、シンガポール在住人口総数 100 人あたりの 2005～2010 年の粗出生率は 5.29 であったが、2025～2030 年に 3.93 になり、2055～2060 年は 3.07 であった。5 つのシミュレーションによる粗出生率を 2055～2060 年で比較すると、出生率一定 3.66、生残率一定 3.29、独自推計 3.07、転入数半減 2.67、移動率一定 2.11、封鎖人口 2.08 の順に大きい。2055～2060 年の粗出生率を独自推計の結果と比較すると、出生率一定は+0.59 (+19.2%)、生残率一定は+3.29 (+7.2%)、転入数半減は-0.40 (-13.1%)、移動率一定は-0.96 (-31.1%)、封鎖人口は-0.99 (-32.4%) ほど変化している。出生率一定ケースは 2013 年の母の年齢別出生率 (TFR で 1.19 人) を固定しているが、その他のケースでは独自推計と同じ年齢別出生率 (TFR で 2010～2015 年の 1.24 人から 2025～2030 年に 1.09 人になり、以後ほとんど変化しないもの) を用いているため、出生率一定以外のケースについて、その差は再生産年齢女子人口と総人口規模の違いが反映されたものである。後にみるように、生残率一定は独自推計より高齢人口が少なくなることで期首人口が少なくなり粗出生率は相対的に大きくなる。転入数半減や移動率一定も独自推計と比べ総人口規模は小さくなるのだが、若年女子における転入人口が減少することが出生数を少なくする影響が大きいため、粗出生率は独自推計より小さくなる。転入数半減と移動率一定の比較では、再生産女子人口は移動率一定の方が小さく、総人口規模は移動率一定の方が大きいため、粗出生率は低くなる。

図 4-4 に粗死亡率 (百分比) の推移をみた。ここでいう粗死亡率とは $x-5 \sim x$ 年の死亡数を $x-5$ 年の 0 歳以上人口 (100 人単位) で除したものであり、推計で用いられる生残率仮定値とは異なり、将来人口の男女年齢構造によって決まる推計結果である。

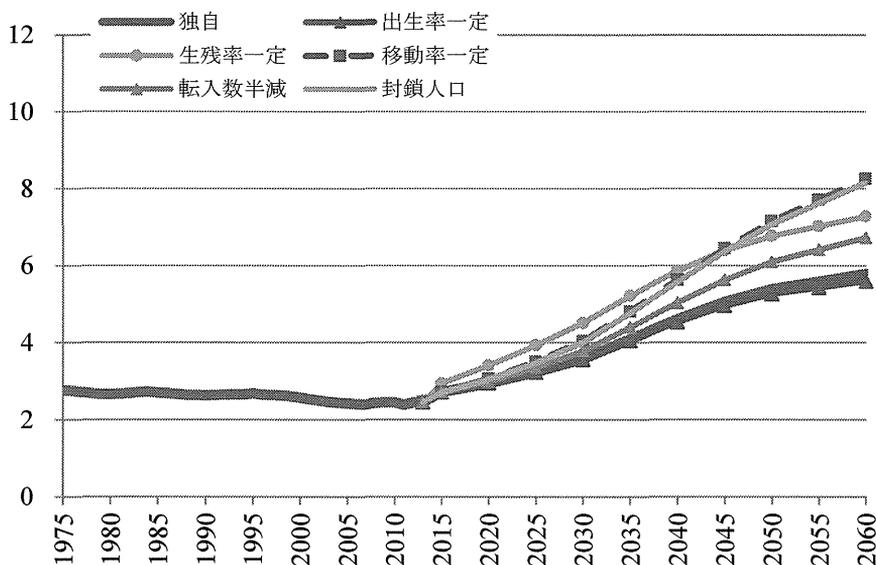


図 4-4 粗死亡率 (%) の推移 : 1970～1975 年から 2055～2060 年

1970～1975年以後 2005～2010年までの粗死亡率は2.4～2.7の範囲にあり、ほとんど変化しなかった。今後は急速な人口の高齢化を反映し、独自推計と5つのシミュレーション結果のすべてで、粗死亡率は2010～2015年から2055～2060年まで一貫して増加することが見通されている。独自推計の場合、シンガポール在住人口総数100人あたりの2005～2010年の粗死亡率は2.45であったが、2030～2035年に4.09になり、2040～2045年に5.05、2055～2060年は5.79になる。5つのシミュレーションによる粗死亡率を2055～2060年で比較すると、出生率一定5.59、転入数半減6.72、生残率一定7.27、封鎖人口8.15、移動率一定8.25の順に小さい。2055～2060年の粗死亡率を独自推計の結果と比較すると、出生率一定は-0.19 (-3.5%)、転入数半減は+0.93 (+16.7%)、生残率一定は+1.49 (+26.6%)、封鎖人口は+2.36 (+42.2%)、移動率一定は+2.46 (44.1%)ほど変化している。生残率一定ケースは2005～2010年の男女年齢別生残率の値(平均寿命は男性78.9歳、女性84.2歳)を固定しているが、その他のケースでは独自推計と同じ男女年齢別生残率(平均寿命でみて、2010～2015年男78.9歳、女83.9歳から2055～2060年には男86.7歳、女89.4歳になるもの)を用いているため、生残率一定以外のケースについて、その差は将来人口の男女年齢構造の違いが反映されたものである。5～9歳以上の死亡率は年齢の単調増加関数であるため、人口の年齢構造が高齢であるほど粗死亡率は高くなる。後にみるように、移動率一定は高齢層にも転入人口があるため、最も急速に高齢化が進むものである。生残率一定の場合には、若年人口に転入があるため、死亡確率(仮定値)が独自推計のより高くても、(2040～2045年以後)粗死亡率は移動率一定より小さくなる。転入数半減についても、このような若年層への転入超過が独自推計より少なくなることによって粗死亡率は高くなっている。

図4-5では自然増加率をみた。自然増加率は、言うまでもなく粗出生率から粗死亡率を差し引いたものであり、人口移動がない場合の人口増加率に一致する。

1970～1975年から2005～2010年の自然増加率は、この間の出生数の変動を反映しており、1970～1975年の8.4%から1982～1987年の5.7%に減少し、1992～1997年に6.7%に増加するものの、2001～2006年の3.1%、2008～2013年の2.6%へ減少している。独自推計によると、2025～2030年の0.4%から2030～2035年の-0.4%にかけて、シンガポール在住人口は自然減少を開始し、2040～2045年に-1.8%、2055～2060年は-2.7%の自然減少が見込まれている。

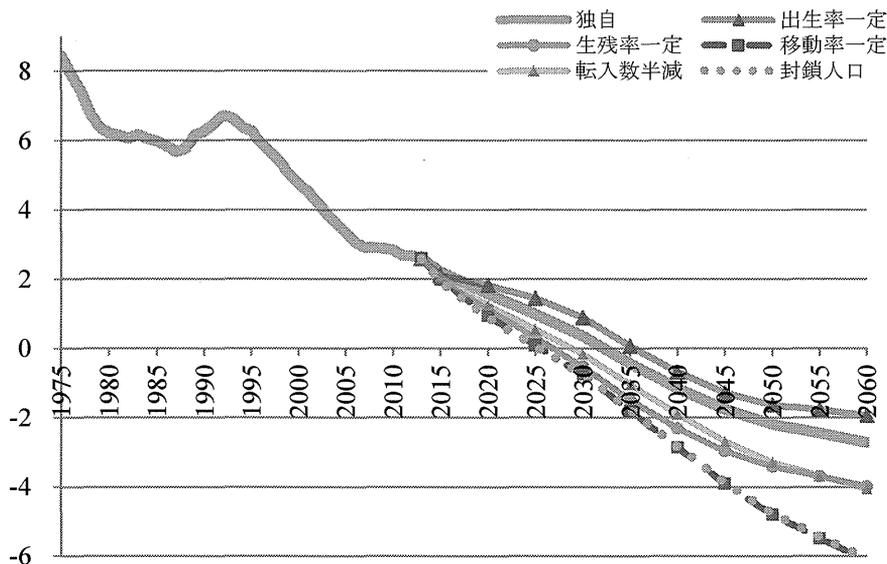


図 4-5 自然増加率(%)の推移：1970～1975 年から 2055～2060 年

自然減少を開始する期間をみると、最も早い封鎖人口と転入数半減は 2025～2030 年、続いて 2030～2035 年に独自推計、生残率一定、移動率一定が自然減少を開始し、残る出生率一定についても 2035～2040 年以後は自然減となる。2055～2060 年の自然増加率を比較すると、出生率一定の-1.9%、独自推計の-2.7%、生残率一定の-4.0%、転入数半減の-4.1%、封鎖人口の-6.1%、移動率一定の-6.1%の順に大きく、減少速度が緩やかである。

コーホート要因法による人口推計における人口変動の要因として、残された社会増加率の推移を図 4-6 にみた。本稿の推計では、率ではなく、転入超過数について仮定を設定して

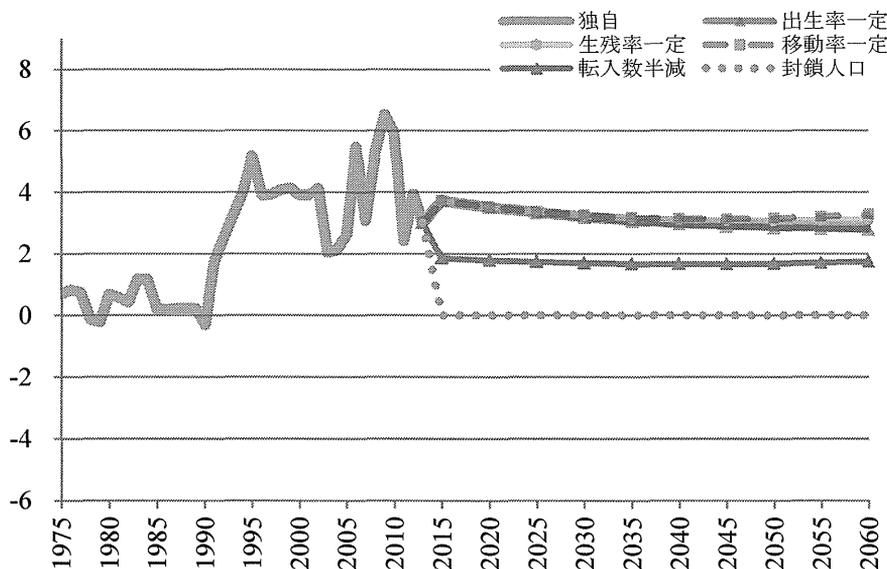


図 4-6 社会増加率(%)の推移：1970～1975 年から 2055～2060 年

いるので、総人口が増加すると社会増加率は低下するし、総人口が減少すると社会増加率は上昇することになるが、変化幅は限定的である。2010～2015年から2055～2060年の社会増加率は、転入数半減の場合で1.7～1.9%、封鎖人口を除くその他のケースは2.8～3.7%の範囲で推移する。

図4-7は、自然増加率(%)に社会増加率(%)を縦軸の正負を逆にして重ねたものである。社会増加率より自然減少率が大きくなったとき、総人口は減少するので、社会増加率の線を自然増加率が上から横切るとき、人口減少が開始する。図4-7をみると、社会増加率の大きさが人口減少の開始時期と深く関わっていることがわかる。

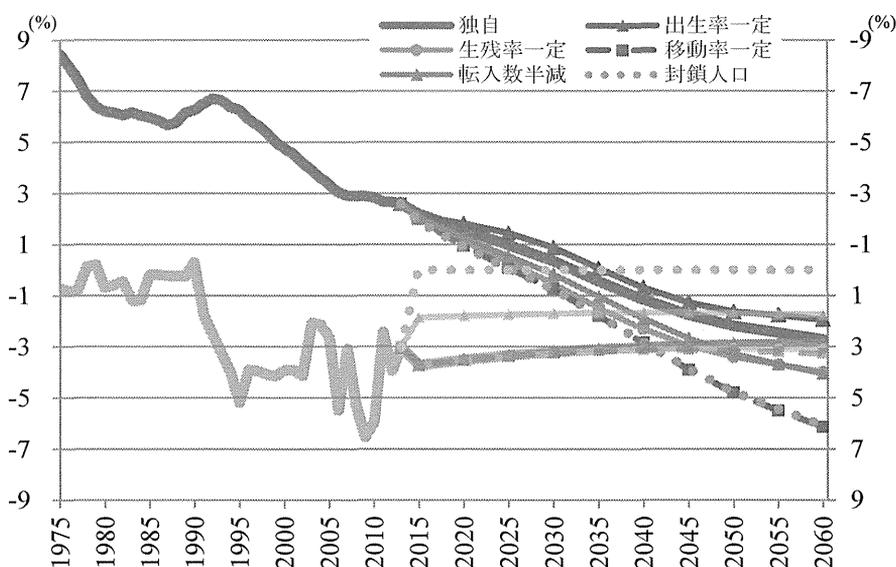


図4-7 自然増加率(右軸)と社会増加率(左軸)の推移：
1970～1975年から2055～2060年

4.3. 年齢別人口に及ぼす影響

年齢別人口の推移を見ると、出生率、死亡率、移動率のそれぞれの人口動態率が比較的大きな影響を及ぼしていることがわかる。2010年を100とした場合の0～19歳人口の指数は、生残率一定と公式推計、独自推計の結果にはほとんど違いはない(図4-8)。一方、出生率一定については、2025年頃から独自推計等より大きくなる。独自推計によると、2013年の94.8から2020年89.0、2025年86.4、2035年82.3、2050年75.9、2060年には73.1へと、0～19歳人口の指数は一貫して小さくなっていった。これに対し、出生率一定の場合、2020年89.6、2025年89.2になると2035年の91.0へ上昇したあと減少し、2050年86.4、2060年には85.7と推移する。独自推計と出生率一定を比較すると、独自推計で見込まれているような過去の趨勢にしたがった今後の出生率の低下は、今後50年間で0～19歳人口を15%ほど減少させることになる。ただし、公式推計と出生率一定の母の年齢別出生率仮定

値は同程度の水準にある。公式推計と比較して出生率一定で見込まれている転入超過数と男女年齢別純移動率（転入人口の男女年齢割合）によって再生産女子人口が多くなっていることの影響とみることもできる（後述）。独自推計と比較して出生率一定で過去の趨勢にしたがった出生率の低下がない場合に0～19歳人口が15%ほど少なくなる一方で、公式推計（出生率一定と同程度の出生率が用いられているはずのもの）と独自推計（将来の出生率は低下する）の0～19歳人口指数が同程度であるということは、独自推計の再生産女子人口が公式推計より多くなっていなければならないことになるわけである。

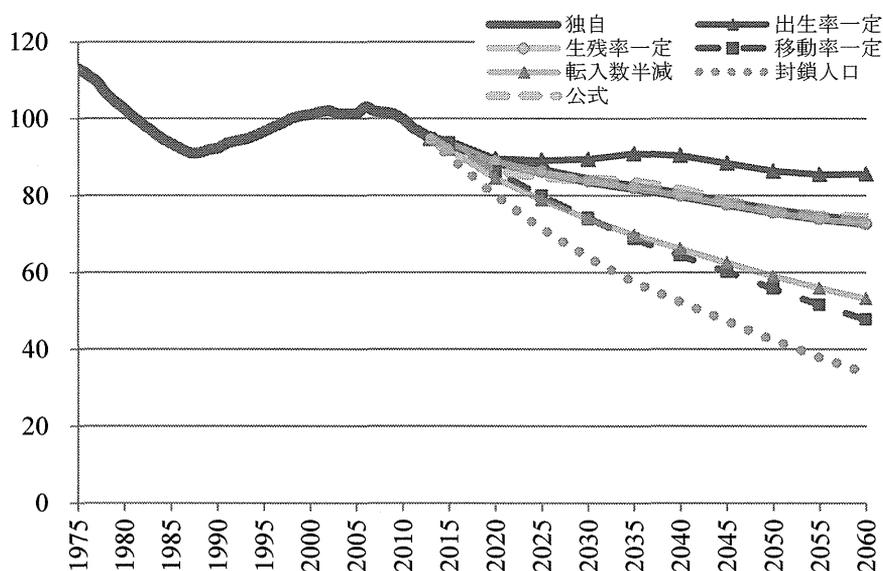


図 4-8 0～19 歳人口の指数（2010 年=100）：1975～2060 年

2060 年の 0～19 歳人口の指数を比較すると、出生率一定の 85.7、公式推計・独自推計・生残率一定の 74.1～72.7、転入数半減の 53.2、移動率一定の 47.8、封鎖人口の 33.9 の順に大きく、最後の 3 つのケースは独自推計と比べ、転入人口が減少し、再生産女子人口が少なくなることの影響である。封鎖人口によると、シンガポールが外国人の受け入れを停止した場合、2060 年までの 50 年間に 0～19 歳のシンガポール在住人口は半減することになる。

20～64 歳人口については、独自推計と公式推計の結果が異なっていた。5 つのシミュレーションの結果を比較すると、2010 年を 100 とした場合の 20～64 歳人口の指数を 2060 年時点についてみると 56.9～109.3 の幅があり、2010 年から 2060 年の変化のパターンはおおむね 3 つのグループに分けることができる（図 4-9）。20～64 歳人口の指数が最も大きいグループの出生率一定、独自推計と生残率一定では、2060 年時点での 20～64 歳人口の指数は 109.3～103.8 の範囲である。次に大きいのは、公式推計、転入数半減と移動率一定で、2060 年時点で 86.4～78.7 の範囲である。残された封鎖人口はこれらと比べると 20～64 歳人口の減少幅が大きく、2060 年の時点で指数は 56.9 になる。20～64 歳という年齢層

では死亡率の水準がそれほど高くなく、出生率の差の影響も推計期間の後半に入らなければ現れないので、これらグループ間の差はおおむね国際人口移動の状況を反映したものと考えることができる。実際、独自推計、転入数半減及び封鎖人口の違いは将来の転入超過数のみであり、2060年時点の20～64歳人口の指数は、独自推計が転入数半減の1.3倍ほど、封鎖人口は転入数半減の0.7倍ほどになっている。

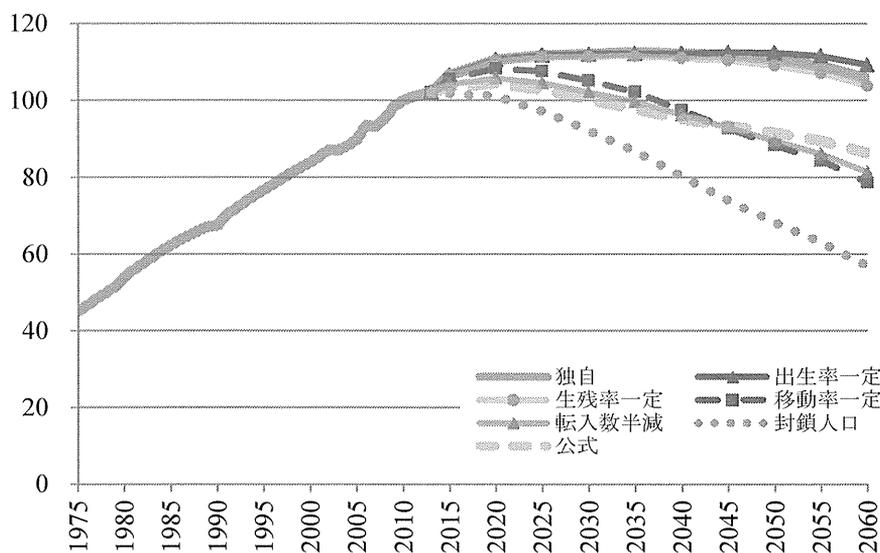


図 4-9 20～64 歳人口の指数 (2010 年=100) : 1975～2060 年

65 歳以上人口については、いずれのケースにおいても急速な増加が見込まれている (図 4-10)。ただし、封鎖人口の場合、2050 年にピークを迎えた後、2060 年にかけて 65 歳以上人口も減少を開始する。その他のケースは 2060 年までの推計期間中、65 歳以上人口が一貫して増加する。生残率が高いほど、40～50 歳代人口など後に 65 歳以上になるコーホートが多いほど、65 歳以上人口は多くなる。2010 年を 100 とした場合の 65 歳以上人口の指数が最も大きくなるのは移動率一定であり、指数は 514.0 で 2060 年の 65 歳以上人口は 2010 年の 5 倍以上になる。独自推計と比較しても移動率一定の 65 歳以上人口が突出して大きくなるのは、転入超過人口を高年齢層にも割り振っているためである。

その他のケースについては、65 歳以上人口の指数は、独自推計 (454.2)、出生率一定 (454.0)、転入数半減 (410.6)、公式推計 (392.5)、封鎖人口 (268.2)、生残率一定 (353.9) の順に大きい (括弧内は 2060 年時点の指数の値)。先にみた通り、独自推計の 65 歳以上人口が公式推計より多くなるのは、2030 年頃より後の期間について独自推計は公式推計よりも大きな死亡水準の低下を見込んでおり、かつ将来の高齢者となる 20～64 歳人口も公式推計より独自推計の方が多いためであろう。独自推計より転入数半減の差の方が指数が小さいのは、転入数半減の方が 20～64 歳人口が少ないことによる。公式推計と転入数半減の結果はおおむね同水準にあり、公式推計に対する独自推計の死亡水準の低下 (生残率の改善)

と、独自推計が転入数半減と比べ転入超過数を倍加させることを通じ若年人口が増加し将来の65歳以上人口が増加するという影響は、65歳以上人口を同程度増加させる（後者の影響が大きい可能性を最後のまとめに指摘する）。

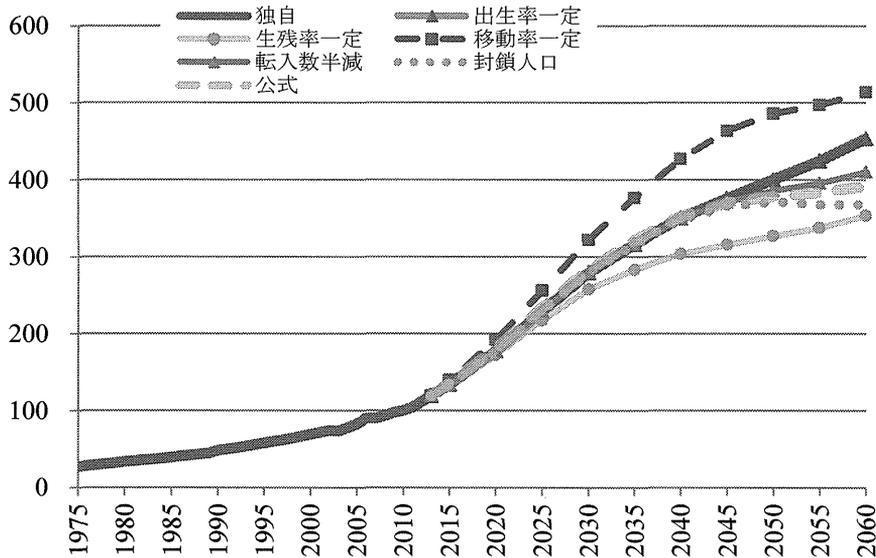


図 4-10 20～64 歳人口の指数 (2010 年=100) : 1975～2060 年

65歳以上人口の増加が最も緩やかなのは、生残率一定のケースである。独自推計は生残率一定と比較して、2010～2015年以後の生残率の改善を仮定するので、独自推計と生残率一定の差が過去の趨勢にしたがった場合の生残率の改善による65歳以上人口の変化に対応する。2010年を100とした場合の65歳以上人口の指数を、独自推定と生残率一定で比較すると生残率一定では2030年頃から65歳以上人口の増加が緩やかになる。2013年の65歳以上の指数は119.5であり、2025年の独自推定229.5は生残率一定の217.6と大きな差はないが、2030年には独自推定の279.6対して生残率一定は258.0となり、2045年は独自推定376.1に対し生残率一定は315.9、そして2060年には独自推定454.2に対し生残率一定の353.9と100ポイント以上の差が生ずる。

出生率、死亡率、移動率のそれぞれの人口動態率が、年齢別人口に影響を及ぼすので、5つのシミュレーションの高齢者支援率の見通しも異なったものになる。急速な少子高齢化により、いずれのケースにおいても今後の高齢者支援率は一貫して低下する点は共通するものの、2060年の高齢者支援率を比較すると、移動率一定の1.14、封鎖人口の1.15、転入数半減の1.47、公式推計の1.64、独自推計の1.73、出生率一定の1.79、生残率一定の2.18の順に小さい(図4-11)。封鎖人口と移動率一定の高齢者支援率が同程度の水準になるのは、封鎖人口の方が移動率一定より20～64歳人口が少ない分、移動率一定の65歳以上人口が多いためである。また、封鎖人口の高齢者支援割合は独自推計の約3分の2で、シンガポールが外国人の受け入れを停止した場合、2060年には65歳以上人口5人あたりの20～64

歳人口は約 9 人から約 6 人に減少する。生残率一定と独自推計を比較すると、生残率の改善による 65 歳以上人口の増加は 2060 年までに 65 歳以上人口 5 人あたりの 20~64 歳以上人口は約 11 人から約 9 人に減少させる。

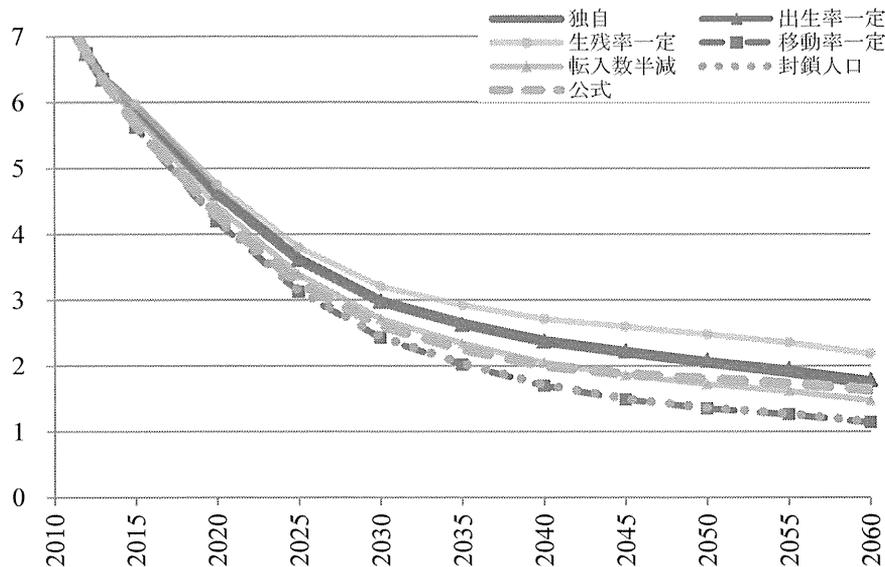


図 4-11 高齢者支援率(%)の推移：2000~2060 年

5. まとめ

本稿では、男女年齢別シンガポール在住人口の将来推計を実施し、出生率、死亡率、移動率のそれぞれの人口動態率を個別に変化させるシミュレーションを行うことで、シンガポールにおける今後の人口変動のパターンと要因を検討した。シンガポール政府統計局の公式推計では出生率が固定されており、転入超過人口の男女年齢割合も明らかにされていないため、今後の人口変動の要因についてあまり詳しいことはわからない。本稿では、独自推計を実施するため、1957 年から 2013 年までのデータを用いて、出生率、死亡率、純移動率の過去の趨勢を分析し、それぞれに過去の趨勢にしたがった場合の仮定値を 2055~2060 年まで男女年齢別に設定した。

独自推計の結果は、シンガポール在住人口総数については公式推計では 2040 年前後に減少に転じるのに対し、2060 年まで増加し続けており、公式推計に比べ 20~64 歳人口も 65 歳以上人口も多く、独自推計で推計された人口の方が総じて多くなっていた。また、今後の出生率が過去の趨勢にしたがって低下する場合には、今後 50 年間で在住人口を 20 万人ほど減少させることなどがわかった。

人口動態率に関する 5 つのシミュレーションの結果を用いて、独自推計や公式推計による今後の人口変動の要因を調べたところ、シンガポール在住人口総数に対しては、封鎖人口の仮定が最も大きな影響を及ぼしていた。続いて転入数を半減させる場合、純移動率を

男女年齢間で一定にする場合の順に総人口を減少させることの影響が大きかった。いずれも国際人口移動に関する仮定であり、将来のシンガポール在住人口の規模は移民政策に強く左右されていた。また、人口減少の開始時期、高齢化の進行度合いも、社会増加率の大きさと深く関わっていた。たとえば、2010年を100とした場合の2060年の20～64歳人口の指数は、独自推計の105.7に対し、封鎖人口は56.9になっていた。20～64歳という年齢層では死亡率の水準がそれほど高くなく、出生率の差の影響も推計期間の後半に入らなければ現れないので、国際人口移動の状況が反映される結果となる。さらに、生産年齢人口の減少は再生産年齢女子人口の減少をとまなうので、封鎖人口でシンガポールが外国人の受け入れを停止した場合、今後2060年までの50年間に0～19歳のシンガポール在住人口は半減することになる。また、人口の年齢構造を変化させるため、封鎖人口の高齢者支援率は独自推計の約3分の2程度になり、シンガポールが外国人の受け入れを停止した場合には2060年には65歳以上人口5人あたりの20～64歳人口は約9人から約6人に減少することになる。

公式推計ではシンガポール在住人口総数が2040年前後に減少に転じるのに対し、独自推計では2060年増加し続けることや、公式推計に比べ独自推計の20～64歳人口が多く、65歳以上人口も多い。また、公式推計が2013年の母の年齢別出生率を一定にしているのに対し、独自推計では過去の趨勢にしたがって今後も出生率が低下することを仮定したにもかかわらず、0～4歳人口は比較的維持されるといった結果は、転入超過数が多いことによってもたらされている可能性が高い。

2010年を100とした場合の0～19歳人口の指数を検討した際、独自推計と比較して出生率一定で過去の趨勢にしたがった出生率の低下がない場合に0～19歳人口が15%ほど少なくなる一方で、公式推計（出生率一定と同程度の出生率が用いられているはずのもの）と独自推計（将来の出生率は低下する）の0～19歳人口指数が同程度であるということは、独自推計の再生産女子人口が公式推計より多くなっていなければならないことを指摘した。また、20～64歳人口の指数では、移動率一定が転入超過人口を独自推計と比べ高齢層に割り振るにも関わらず、転入数半減と移動率一定及び公式推計の指数が同程度の水準であることをみた。

公式推計において、転入超過人口をどのように男女年齢に割り振っているかは不明だが、転入率一定（転入超過人口を独自推計と比べ高齢層に割り振る）の65歳以上人口の指数が他のどのケースと比べても2030年以後突出して大きくなっており、公式推計の65歳以上人口の指数は転入数半減とおおむね同程度の水準であることを考え合わせると、転入超過人口を大きく高齢人口に割り振っているとは考えにくく、最近の純移動の男女年齢構造に近いもので割り振っていると考えられる。したがって公式推計においては転入数半減程度の転入超過が見込まれている可能性が高い。独自推計の65歳以上人口が公式推計より多くなるのは、2030年頃より後の期間について独自推計は公式推計よりも大きな死亡水準の低下を見込んでいるためという側面は限定的で（2050年以後、公式推計より転入数半減の方

が若干 65 歳以上人口の指数が大きくなっている程度の差は生じても、独自推計と公式推計ほどの差は生じないであろう)、独自推計が転入数半減と比べ転入超過数を倍加させることを通じ若 一年人口が増加し将来の 65 歳以上人口が増加するという影響が大きい可能性が高い。

この場合、独自推計では 2030 年前後に自然減少を開始していたが、2025 年前後に自然減となる。また、今後出生率が過去の趨勢にしたがって低下し、生残率が改善すると、独自推計と比較して、65 歳以上人口の増加は抑制されるものの、より急速で深刻な少子化と若年人口の減少が起こり、高齢者支援率は低下することが予見される。

参考文献

- Hamilton, James D.(1994), *Time Series Analysis*, Princeton: Princeton University Press.
- Lee, Ronald D. and Lawrence R. Carter (1992) “Modeling and Forecasting U. S. Morality,” *Journal of the American Statistical Association*, Vol. 87, No. 419, pp.659-671.
- Kaneko, Ryuichi(2003) “Elaboration of the Coale-McNeil Nuptuality Model as the Generalized Log Gamma Distribution: A New Identity and Empirical Enhancements,” *Demographic Research*, Vol.9(10): pp 223-262.
- 金子隆一 (2009) 「将来人口推計における出生仮定の枠組みについて」『人口問題研究』、第 65 号 2 巻、1～27 ページ。
- Kim, Khoo Chian(1983) *Census of Population 1980 Singapore, Administrative Report*, Singapore Department of Statistics.
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2012) 『日本の将来推計人口－平成 23 (2011) ～平成 72 (2060) 年－ 平成 24 年 1 月推計』、人口問題研究資料第 326 号、2012 年 3 月 30 日。
- 菅桂太 (2013) 「シンガポールにおける高齢化の民族格差」『東アジア低出生力国における人口高齢化の展望と対策に関する国際比較研究』厚生労働科学研究費補助金地球規模保健課題推進研究事業 (H24－地球規模－一般－003) 平成 25 年度総括研究報告書、研究代表者 鈴木透、2013 年 3 月。
- Singapore Family Planning and Population Board(1983) *Population Projections for Singapore 1980-2030*, Singapore Family Planning and Population Board.
- Singapore National Population and Talent Division (2013) *A Sustainable Population for a Dynamic Singapore -Population White Paper*, Singapore.

データ出所

- Khoo(1981) *Singapore: Census of Population 1980, Release No.2 Demographic Characteristics*, Singapore Department of Statistics.
- Lau(1991) *Singapore: Census of Population 1990, Release No.2 Demographic Characteristics*, Singapore Department of Statistics.
- Registry of Births and Deaths, Immigration and Checkpoints Authority Singapore, *Report on Registration of Births and Deaths, 1980-2009*.
- Singapore, *Report on Registration of Births, Deaths and Marriages, 1968-1979*.
- Singapore, *Yearbook of Statistics Singapore, 1978/79-2014*.
- Singapore Department of Statistics, *Population Trends 2006-2014* Singapore.
- Singapore Department of Statistics, *Completed Lifetable for Singapore Resident Population 2003-2013* Singapore.
- Singapore Department of Statistics(1995) *General Household Survey, Release No.1 Socio-Demographic Characteristics*, Singapore.
- Singapore Department of Statistics(2000) *Singapore: Census of Population 2000, Release No.2 Demographic Characteristics*, Singapore Department of Statistics.
- Singapore Department of Statistics(2005) *General Household Survey, Release No.1 Socio-Demographic Characteristics*, Singapore.
- Singapore Department of Statistics(2000a) *Singapore: Census of Population 2010, Release No.2 Demographic Characteristics*, Singapore Department of Statistics.
- Singapore Department of Statistics(2015a) *Projected Population by Age Group and Sex, 2015-2060*, Singapore.
- Singapore Department of Statistics(2015b) *Projected Resident Mortality Rates by Age Group and Sex, 2015-2060*, Singapore.

結果表 男女年齢（5歳）階級別シンガポール在住人口の推移：2010～2060年
(Thousands)

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総数											
Total	3,772	3,996	4,199	4,381	4,537	4,658	4,744	4,801	4,836	4,858	4,867
0 - 4	194	184	183	181	176	170	165	161	158	156	154
5 - 9	216	209	196	194	191	186	180	174	170	167	165
10 - 14	244	221	215	202	199	197	193	186	180	176	173
15 - 19	264	246	223	217	204	202	199	195	188	183	178
20 - 24	247	271	257	233	228	215	213	211	207	200	194
25 - 29	273	286	312	295	269	265	252	251	249	245	238
30 - 34	299	314	323	350	332	304	300	286	286	284	280
35 - 39	320	318	333	343	373	354	325	322	308	307	306
40 - 44	309	327	324	340	350	381	363	334	331	316	316
45 - 49	323	308	325	323	338	349	380	362	333	330	316
50 - 54	303	320	305	322	320	336	347	378	360	331	328
55 - 59	249	297	314	300	317	316	332	343	374	356	328
60 - 64	192	241	288	306	293	311	310	326	337	368	351
65 - 69	112	182	229	276	294	283	300	300	317	329	360
70 - 74	93	102	167	212	257	276	267	285	286	302	315
75 - 79	65	79	88	147	188	230	248	242	260	262	279
80 - 84	40	51	63	71	120	155	192	209	206	222	226
85 & over	29	40	54	71	87	129	179	237	287	321	358
男											
Total	1,861	1,960	2,047	2,123	2,187	2,232	2,262	2,277	2,284	2,285	2,282
0 - 4	99	94	93	92	90	87	84	82	81	80	79
5 - 9	110	106	99	98	97	95	92	89	87	85	84
10 - 14	125	112	108	102	101	100	97	94	91	89	88
15 - 19	134	126	113	108	102	101	100	98	95	92	89
20 - 24	124	136	128	115	111	105	104	103	101	98	95
25 - 29	131	137	150	142	128	124	117	117	116	114	110
30 - 34	143	148	153	166	157	142	138	131	131	130	128
35 - 39	156	153	158	163	177	168	152	148	142	142	141
40 - 44	153	160	157	161	167	181	173	157	153	146	146
45 - 49	163	152	159	156	161	166	181	172	157	153	146
50 - 54	153	161	150	157	154	159	165	180	171	156	152
55 - 59	125	149	157	147	154	152	157	163	178	169	154
60 - 64	95	120	143	152	143	150	148	154	159	175	167
65 - 69	53	88	112	136	145	137	144	143	149	155	170
70 - 74	43	47	80	102	125	134	128	136	135	141	147
75 - 79	28	36	40	68	89	109	119	114	122	123	129
80 - 84	16	21	27	31	54	71	89	98	95	103	104
85 & over	10	14	19	26	33	51	74	99	122	136	152
女											
Total	1,911	2,036	2,152	2,258	2,350	2,425	2,482	2,524	2,553	2,573	2,585
0 - 4	96	91	90	88	86	83	81	79	77	76	75
5 - 9	105	103	97	95	94	92	88	86	84	82	81
10 - 14	119	109	107	100	99	97	95	92	89	87	86
15 - 19	130	121	110	108	102	100	99	97	94	91	89
20 - 24	123	136	128	118	117	110	109	108	106	103	100
25 - 29	141	148	162	153	142	141	135	134	133	131	127
30 - 34	156	166	170	184	175	162	162	155	154	154	152
35 - 39	164	164	175	180	196	186	173	174	166	166	165
40 - 44	156	167	167	178	184	200	190	177	178	170	170
45 - 49	160	156	166	167	177	183	199	190	176	177	170
50 - 54	150	159	155	165	166	176	182	198	189	176	176
55 - 59	124	148	157	153	163	164	175	180	196	187	174
60 - 64	97	121	145	154	150	160	161	172	178	194	185
65 - 69	58	93	116	140	149	146	156	157	168	174	190
70 - 74	50	54	88	110	133	142	139	149	151	161	167
75 - 79	37	44	48	79	99	121	130	128	138	140	150
80 - 84	24	30	36	40	66	84	103	111	111	120	122
85 & over	20	27	35	44	54	77	105	137	165	185	206

仮定値表 1 母の年齢（5 歳）階級別出生率：2010～2015 年から 2055～2060 年

	2010~15	2015~20	2020~25	2025~30	2030~35	2035~40	2040~45	2045~50	2050~55	2055~60
合計出生率	1.24	1.15	1.11	1.09	1.09	1.09	1.09	1.09	1.09	1.09
15 - 19	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357	0.0357
20 - 24	0.2083	0.1751	0.1751	0.1751	0.1751	0.1751	0.1751	0.1751	0.1751	0.1751
25 - 29	0.4238	0.3899	0.3551	0.3551	0.3551	0.3551	0.3551	0.3551	0.3551	0.3551
30 - 34	0.3669	0.3532	0.3434	0.3284	0.3284	0.3284	0.3284	0.3284	0.3284	0.3284
35 - 39	0.1614	0.1571	0.1537	0.1535	0.1506	0.1506	0.1506	0.1506	0.1506	0.1506
40 - 44	0.0382	0.0374	0.0389	0.0371	0.0373	0.0369	0.0369	0.0369	0.0369	0.0369
45 - 49	0.0078	0.0061	0.0050	0.0059	0.0052	0.0052	0.0052	0.0052	0.0052	0.0052

仮定値表 2 男女年齢（5 歳）階級別生残率：2010～2015 年から 2055～2060 年

	2010~15	2015~20	2020~25	2025~30	2030~35	2035~40	2040~45	2045~50	2050~55	2055~60
男										
出生→ 0- 4	0.9978	0.9983	0.9986	0.9989	0.9991	0.9993	0.9994	0.9995	0.9996	0.9996
0- 4→ 5- 9	0.9991	0.9993	0.9994	0.9995	0.9996	0.9997	0.9997	0.9998	0.9998	0.9998
5- 9→10-14	0.9994	0.9995	0.9996	0.9996	0.9997	0.9997	0.9997	0.9998	0.9998	0.9998
10-14→15-19	0.9988	0.9989	0.9991	0.9992	0.9993	0.9993	0.9994	0.9995	0.9995	0.9996
15-19→20-24	0.9969	0.9971	0.9973	0.9975	0.9976	0.9978	0.9979	0.9980	0.9981	0.9982
20-24→25-29	0.9955	0.9957	0.9960	0.9962	0.9963	0.9965	0.9967	0.9968	0.9970	0.9971
25-29→30-34	0.9955	0.9958	0.9960	0.9963	0.9965	0.9967	0.9969	0.9970	0.9972	0.9973
30-34→35-39	0.9952	0.9956	0.9960	0.9963	0.9966	0.9968	0.9970	0.9972	0.9974	0.9976
35-39→40-44	0.9937	0.9943	0.9949	0.9953	0.9957	0.9961	0.9964	0.9967	0.9970	0.9972
40-44→45-49	0.9907	0.9917	0.9926	0.9933	0.9940	0.9946	0.9951	0.9955	0.9959	0.9962
45-49→50-54	0.9851	0.9869	0.9884	0.9896	0.9907	0.9917	0.9925	0.9932	0.9939	0.9944
50-54→55-59	0.9750	0.9779	0.9804	0.9826	0.9844	0.9860	0.9874	0.9886	0.9896	0.9906
55-59→60-64	0.9587	0.9636	0.9678	0.9714	0.9744	0.9771	0.9794	0.9814	0.9831	0.9846
60-64→65-69	0.9320	0.9396	0.9461	0.9517	0.9566	0.9609	0.9646	0.9679	0.9707	0.9732
65-69→70-74	0.8905	0.9013	0.9107	0.9190	0.9263	0.9327	0.9384	0.9434	0.9479	0.9518
70-74→75-79	0.8278	0.8422	0.8549	0.8663	0.8765	0.8857	0.8939	0.9013	0.9079	0.9139
75-79→80-84	0.7384	0.7558	0.7717	0.7861	0.7992	0.8111	0.8221	0.8320	0.8412	0.8495
80+ →85+	0.5459	0.5587	0.5707	0.5818	0.5923	0.6020	0.6112	0.6198	0.6280	0.6356
女										
出生→ 0- 4	0.9981	0.9984	0.9987	0.9989	0.9990	0.9992	0.9993	0.9994	0.9994	0.9995
0- 4→ 5- 9	0.9992	0.9994	0.9995	0.9995	0.9996	0.9996	0.9997	0.9997	0.9997	0.9998
5- 9→10-14	0.9995	0.9996	0.9996	0.9997	0.9997	0.9997	0.9998	0.9998	0.9998	0.9998
10-14→15-19	0.9992	0.9993	0.9994	0.9994	0.9995	0.9995	0.9995	0.9996	0.9996	0.9996
15-19→20-24	0.9986	0.9987	0.9988	0.9988	0.9989	0.9990	0.9990	0.9991	0.9991	0.9991
20-24→25-29	0.9983	0.9984	0.9985	0.9986	0.9987	0.9988	0.9988	0.9989	0.9989	0.9990
25-29→30-34	0.9982	0.9984	0.9985	0.9986	0.9987	0.9988	0.9989	0.9990	0.9990	0.9991
30-34→35-39	0.9978	0.9980	0.9982	0.9984	0.9985	0.9986	0.9987	0.9988	0.9988	0.9989
35-39→40-44	0.9968	0.9971	0.9974	0.9977	0.9979	0.9980	0.9982	0.9983	0.9984	0.9985
40-44→45-49	0.9948	0.9953	0.9958	0.9961	0.9965	0.9967	0.9969	0.9971	0.9973	0.9974
45-49→50-54	0.9912	0.9921	0.9928	0.9934	0.9939	0.9943	0.9947	0.9950	0.9953	0.9955
50-54→55-59	0.9855	0.9869	0.9881	0.9891	0.9899	0.9906	0.9912	0.9918	0.9922	0.9926
55-59→60-64	0.9761	0.9784	0.9803	0.9819	0.9832	0.9844	0.9854	0.9863	0.9870	0.9876
60-64→65-69	0.9599	0.9635	0.9665	0.9691	0.9713	0.9731	0.9748	0.9762	0.9774	0.9784
65-69→70-74	0.9323	0.9380	0.9428	0.9469	0.9504	0.9534	0.9561	0.9583	0.9603	0.9621
70-74→75-79	0.8841	0.8924	0.8994	0.9056	0.9109	0.9155	0.9195	0.9231	0.9262	0.9290
75-79→80-84	0.8107	0.8219	0.8316	0.8402	0.8477	0.8543	0.8601	0.8653	0.8699	0.8740
80+ →85+	0.6042	0.6159	0.6263	0.6357	0.6442	0.6518	0.6587	0.6649	0.6705	0.6756

仮定値表 3-1 男女年齢（5歳）階級別純移動率（補正前）：2010～2015年から2055～2060年

	2010~15	2015~20	2020~25	2025~30	2030~35	2035~40	2040~45	2045~50	2050~55	2055~60
男										
出生→0-4	-0.0142	0.0003	0.0071	0.0104	0.0119	0.0126	0.0130	0.0132	0.0132	0.0133
0-4→5-9	0.0533	0.0466	0.0419	0.0385	0.0361	0.0345	0.0333	0.0324	0.0318	0.0314
5-9→10-14	0.0152	0.0178	0.0180	0.0180	0.0180	0.0180	0.0180	0.0180	0.0180	0.0180
10-14→15-19	0.0024	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025	0.0025
15-19→20-24	0.0131	0.0201	0.0207	0.0207	0.0207	0.0207	0.0207	0.0207	0.0207	0.0207
20-24→25-29	0.0879	0.0836	0.0815	0.0805	0.0801	0.0799	0.0798	0.0797	0.0797	0.0797
25-29→30-34	0.1041	0.0911	0.0842	0.0806	0.0787	0.0776	0.0771	0.0768	0.0767	0.0766
30-34→35-39	0.0598	0.0533	0.0512	0.0506	0.0504	0.0503	0.0503	0.0503	0.0503	0.0503
35-39→40-44	0.0217	0.0211	0.0211	0.0211	0.0211	0.0211	0.0211	0.0211	0.0211	0.0211
40-44→45-49	0.0038	0.0021	0.0017	0.0016	0.0016	0.0016	0.0016	0.0016	0.0016	0.0016
45-49→50-54	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
50-54→55-59	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
55-59→60-64	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
60-64→65-69	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
65-69→70-74	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
70-74→75-79	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
75-79→80-84	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
80+ →85+	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
女										
出生→0-4	0.0087	0.0200	0.0244	0.0262	0.0268	0.0271	0.0272	0.0273	0.0273	0.0273
0-4→5-9	0.0644	0.0561	0.0502	0.0460	0.0430	0.0409	0.0394	0.0383	0.0375	0.0370
5-9→10-14	0.0228	0.0250	0.0251	0.0251	0.0251	0.0251	0.0251	0.0251	0.0251	0.0251
10-14→15-19	0.0129	0.0130	0.0130	0.0130	0.0130	0.0130	0.0130	0.0130	0.0130	0.0130
15-19→20-24	0.0358	0.0495	0.0544	0.0561	0.0568	0.0570	0.0570	0.0571	0.0571	0.0571
20-24→25-29	0.1579	0.1517	0.1484	0.1466	0.1456	0.1451	0.1448	0.1447	0.1446	0.1446
25-29→30-34	0.1342	0.1180	0.1082	0.1024	0.0990	0.0969	0.0956	0.0949	0.0945	0.0942
30-34→35-39	0.0456	0.0454	0.0454	0.0454	0.0454	0.0454	0.0454	0.0454	0.0454	0.0454
35-39→40-44	0.0171	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165	0.0165
40-44→45-49	0.0012	-0.0002	-0.0005	-0.0006	-0.0006	-0.0006	-0.0006	-0.0006	-0.0006	-0.0006
45-49→50-54	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
50-54→55-59	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
55-59→60-64	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
60-64→65-69	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
65-69→70-74	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
70-74→75-79	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
75-79→80-84	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
80+ →85+	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000

※2.5節の方法で補正される前のもの（ ${}_5\tilde{m}'_x = z^t \cdot {}_5m'_x, (z^t > 0)$ ）の ${}_5m'_x$ ）である。

仮定値表 3-2 男女年齢（5 歳）階級別純移動率（補正後）：2010～2015 年から 2055～2060 年

	2010~15	2015~20	2020~25	2025~30	2030~35	2035~40	2040~45	2045~50	2050~55	2055~60
男										
出生→0-4	-0.0183	0.0003	0.0093	0.0143	0.0173	0.0193	0.0206	0.0213	0.0218	0.0224
0-4→5-9	0.0689	0.0598	0.0550	0.0532	0.0526	0.0527	0.0527	0.0525	0.0525	0.0529
5-9→10-14	0.0196	0.0229	0.0237	0.0249	0.0263	0.0276	0.0286	0.0292	0.0298	0.0304
10-14→15-19	0.0031	0.0032	0.0032	0.0034	0.0036	0.0038	0.0039	0.0040	0.0041	0.0042
15-19→20-24	0.0169	0.0258	0.0272	0.0286	0.0302	0.0317	0.0328	0.0336	0.0342	0.0349
20-24→25-29	0.1135	0.1073	0.1071	0.1112	0.1165	0.1222	0.1264	0.1291	0.1315	0.1342
25-29→30-34	0.1344	0.1169	0.1106	0.1112	0.1144	0.1188	0.1221	0.1244	0.1265	0.1290
30-34→35-39	0.0772	0.0683	0.0673	0.0699	0.0733	0.0771	0.0797	0.0815	0.0830	0.0848
35-39→40-44	0.0280	0.0270	0.0277	0.0291	0.0306	0.0322	0.0334	0.0341	0.0347	0.0355
40-44→45-49	0.0049	0.0027	0.0023	0.0022	0.0023	0.0024	0.0025	0.0026	0.0026	0.0027
45-49→50-54	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
50-54→55-59	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
55-59→60-64	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
60-64→65-69	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
65-69→70-74	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
70-74→75-79	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
75-79→80-84	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
80+ →85+	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
女										
出生→0-4	0.0112	0.0257	0.0321	0.0361	0.0390	0.0415	0.0431	0.0441	0.0450	0.0460
0-4→5-9	0.0832	0.0720	0.0659	0.0635	0.0625	0.0625	0.0623	0.0620	0.0619	0.0623
5-9→10-14	0.0295	0.0321	0.0330	0.0347	0.0366	0.0385	0.0398	0.0407	0.0415	0.0423
10-14→15-19	0.0167	0.0167	0.0171	0.0180	0.0189	0.0199	0.0206	0.0211	0.0215	0.0219
15-19→20-24	0.0462	0.0636	0.0715	0.0775	0.0826	0.0872	0.0904	0.0924	0.0942	0.0962
20-24→25-29	0.2039	0.1947	0.1949	0.2024	0.2119	0.2221	0.2295	0.2343	0.2386	0.2435
25-29→30-34	0.1734	0.1514	0.1422	0.1414	0.1440	0.1483	0.1515	0.1537	0.1559	0.1587
30-34→35-39	0.0590	0.0582	0.0596	0.0626	0.0660	0.0694	0.0719	0.0735	0.0749	0.0764
35-39→40-44	0.0221	0.0211	0.0216	0.0227	0.0239	0.0252	0.0261	0.0266	0.0272	0.0277
40-44→45-49	0.0016	-0.0002	-0.0006	-0.0008	-0.0008	-0.0009	-0.0009	-0.0009	-0.0010	-0.0010
45-49→50-54	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
50-54→55-59	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
55-59→60-64	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
60-64→65-69	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
65-69→70-74	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
70-74→75-79	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
75-79→80-84	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
80+ →85+	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000

※2.5 節の方法で補正されたもの (${}_5\tilde{m}'_x = z' \cdot {}_5m'_x, (z' > 0)$) の ${}_5\tilde{m}'_x$) である。

中国における公的医療保険制度の実施状況とその問題点

—医療保障における都市部と農村部間の格差

馬 欣欣（京都大学）*

要旨

中国では、体制移行期に、公的医療保険制度（都市従業員基本医療保険制度、都市住民基本医療保険制度、新型農村合作医療制度）が制定・実施された。すべての国民は3つの公的医療保険制度によってカバーされるため、制度上で「国民皆保険」の目標を達成した。しかし、現行の制度には様々な問題が存在している。本稿では、政府統計データに基づいて、医療供給体制、医療需要、医療保険金財源・医療費給付において、都市部と農村部間の格差を検討した。分析結果により、都市部と農村部間の格差が大きいことが示された。今後、医療保障における公平性の問題を重視し、都市部と農村部における「公的医療保険制度の一体化」の改革を促進すべきであることが示唆された。

キーワード：中国医療保障、公的医療保険制度の改革、都市部と農村部間の格差

1. はじめに

中国では、計画経済期に公的医療保険制度（労働保険医療制度、公務員公費医療制度）、共済互助医療（農村合作医療）が実施された。体制移行期に国有企業の改革、農村土地請負制度の改革が促進されるとともに、1990年以降、政府が公的医療保険制度の改革を行い、都市従業員基本医療保険制度（1998年）、都市住民基本医療保険制度（2007年）、新型農村合作医療制度（2003年）が逐次に制定・実施された¹。経過年とともにそれらの制度の加入者数が大幅に増加している。すべての国民は3つの公的医療保険制度によってカバーされるため、制度上で「国民皆保険」の目標を達成した。

しかし、中国では、計画経済期に戸籍制度の実施によって、医療保障制度を含む社会保障制度は、都市部と農村部によって分断された。体制移行期における公的医療保険制度が計画経済期における労働保険医療制度、公務員公費医療制度、農村合作医療制度から改革されたもので

* 本稿は馬（2016）の一部に基づいて作成したものである。詳細な内容に関しては、馬（2016）第3章「中国における公的医療保険制度の実施現状およびその問題点」を参照されたい。

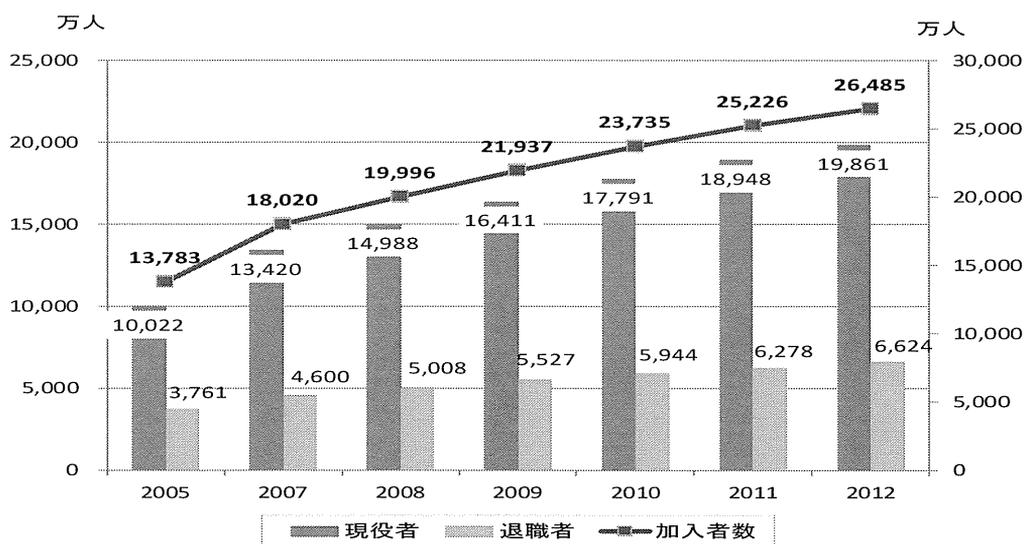
¹ 中国における公的医療保険制度の変遷の詳細に関しては、何（2005）、李（2005）、徐（2008）、王（2012）、李（2012）、顧・李（2013）、馬（2013）、馬（2014a,b,c,d,e）、久保（2014）などを参照されたい。

あり、現行の公的医療保険制度の仕組みおよび医療保険財源などは依然として都市部と農村部によって分断されているため、制度の運営において、都市部と農村部間の差異が存在していると考えられる。本稿では中国政府が公表した統計データを活用し、公的医療保険制度の実施状況の実態を明らかにしたうえで、医療保障における都市部と農村部間の格差問題を焦点に当てて検討したい。

2. 中国における医療保険制度の実施状況

(1) 中国都市部における公的医療保険制度の実施状況

都市部における公的医療保険制度の実施状況は図1で示している。都市従業員基本療養保険制度加入者数は2005年の1.38億人から2012年の2.65億人へと倍増している。そのうち、現役就業者で加入者数が2005年の1.00億人から2011年の1.89億人へと増加し、退職者で加入者数が2005年の0.38億人から2011年の0.63億人へと増加した。経過年とともに、退職者数が増加することにつれて退職者グループで都市従業員基本医療保険制度の加入者が増加していると考えられる。また都市住民基本医療保険制度加入者数(図2)は2007年の0.43億人から2012年の2.72億人へと増加した。



出所:『2012年中国衛生統計年鑑』、『中国統計年鑑2012』および

「2012年労働和社会保障事業発展統計公報」に基づき作成。

図1 都市従業員基本医療保険制度の加入状況(2005～2012年)